

# 留学報告書

磯野 文香

2020年8月

カリフォルニア大学バークレー校に留学している磯野と申します。PhD 課程の5年目後半にあたる2020年の1月から8月までの状況を報告させていただきます。

2020年、今年は毎日実験に明け暮れて良い実験結果を出すぞ、と意気込んでスタートを切りました。このとき、2020年がこんなにも特別な年になることを誰が想像できたでしょうか？

2月には初めて3部屋分の実験装置をフル活動させて調子が乗ってきたところで、新型コロナウイルス感染拡大により3月17日火曜に研究室が閉鎖しました。この日は今でも鮮明に覚えています。一日前、16日月曜日にたまたま一日休暇をとって郊外に出かけていたところ、サンフランシスコなどのベイエリアの街がシャットダウンするという情報が入り、慌てて夕方に買い出しをし、街に戻りました。高速道路の反対車線はサンフランシスコから郊外に脱出(?)しようとする車で大きな渋滞が発生していました。まるでハリウッド映画のワンシーンのような光景だったのをいまでも覚えています。

次に初めて研究室に戻ったのは7月です。幸い執筆途中の論文があったのと、まだ受けていなかったQualifying examの勉強をしなけりばならなかったこともあり、自宅での研究活動は生産性のあるものとなりました。しかし、このshelter in placeを通して、実験屋としての難しい立場を考えさせられることとなりました。

私は70歳の年配の方と家をシェアしていましたが、もし万が一のことを考えて、新型コロナウイルスが拡大したところで家を出て、収束の見込みがないと判断した5月末に正式に引越しました。ハウスメイトには大変よくしていただいたにもかかわらず、まともに顔を合わせてお別れを言うこともできなかったことを今でも心残りに思っています。

Qualifying exam(Qual)について少し説明したいと思います。Qualは大学や学科によって受けるタイミングが違いますが、バークレーの物理系ではまず1年目にpreliminary examを受けて、その後にQualを受けます。バークレーではDefence(博士論文発表会)が無いためか、私の周りではQualは半分Defenceのような役割を果たしていて、卒論執筆開始前に受けるような風潮があります。と言うわけで、コロナを機に私もようやくQualを受けることにしました。Qualでは教授4名を招待して、研究発表とそれに関する質疑応答、研究分野に関連する物理を理解しているかが試される口頭試験が行われます。約2時間半にわたり質問攻めにされるので、受けるプレッシャーはとてつもないです。中には”あなたが仮に○○を一から作るうとしたら、どういうアプローチをとるか？”など、思考力を試される質問も課せられます。通常は大学の教室を借りて試験が行われ

ますが、大学が閉鎖しているため、ZOOMでの試験となりました。そのため、試験はあっけなく終わってしまいましたが、無事パスしてまた研究に専念できることにホッとしています。

今年はいくつか学会を予定していましたが、残念ながら全てキャンセルまたはオンラインとなりました。学会では発表以外の場、例えばポスターセッションや食事の時に気軽に話しかけたことがきっかけで研究のコラボレーションをすることもあるので、今後しばらくはオンラインでしか学会を行えないことを大変残念に思います。

改めて、留学を支援してくださっている船井情報科学振興財団の皆様にお礼申し上げます。卒業予定時期まで後一年を迫りました。残り少ない学生期間を大事にしながら研究にさらに励んでいきたいと思います。



サンフランシスコ、ゴールデンブリッジ